

3. 1 2 徳島県の活動報告

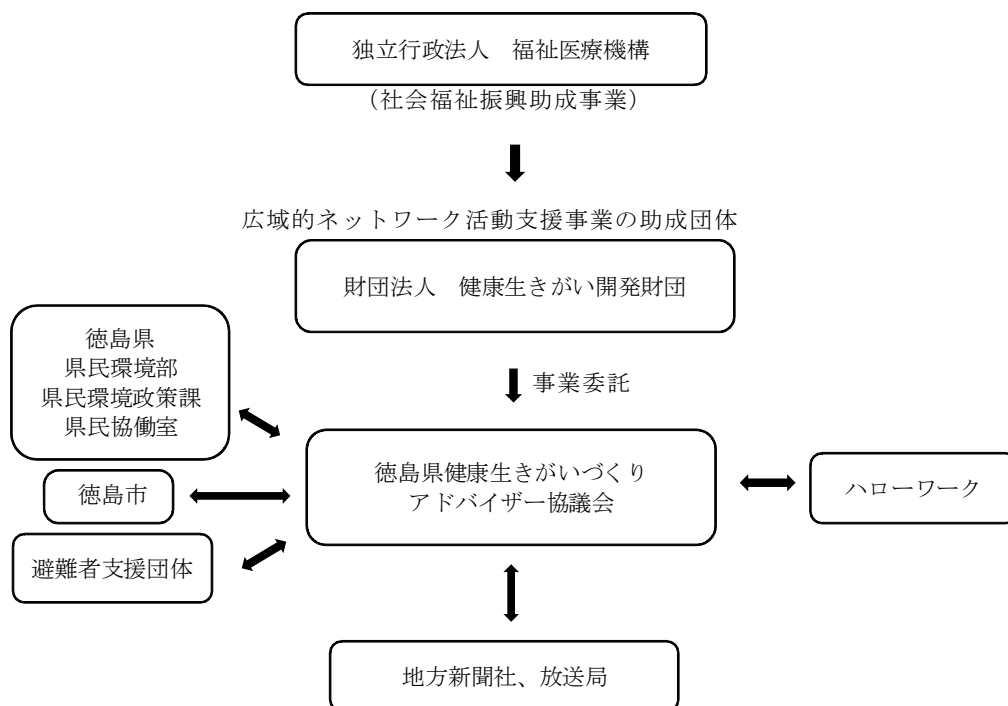
徳島県健康生きがいきづくりアドバイザー協議会

1. 事業概要

(1) 事業の目的

「東日本大震災で徳島県に避難されている方々が、住まいや就労をはじめとした生活の安定を確保すること」を目的とする。

(2) 事業の実施体制及びその他の関係団体等との連携



(3) 実施した事業の概要

- 1) 5月25日、プロジェクトチームを編成した。
対策会議を11回開催した。
- 2) 避難者の就労支援
 - ①徳島県避難者相談窓口担当者より、3件の協力依頼があり、対応した。
 - ②避難者と面談し、状況、要望等を把握した。
 - ③ハローワークに出向き、就職情報を入手して、避難者に提供した。
 - ④3件中、1件は本人努力で就職でき、1件はタイミングが悪く、マッチングに至っていない。もう1件は12月に就職が内定した。
- 3) 避難者の事業開業支援（国の支援政策情報の提供と応援）

三好市出身で福島県いわき市（福島第一原発事故現場50km）での被災者が故郷で焼き鳥店を開店するにあたり、国の支援政策情報の提供と応援を行った。
- 4) 避難者を支援するイベントを3件開催
 - ①「指ヨガ講習会」を開催（8月16日）
指ヨガの講習と実演を行った。
 - ②「お鍋一つで笑顔こぼれる健康料理教室」開催と支援物資コーナー併設（10月28日）
陰陽重ね煮クッキングで、有機栽培、低農薬の地産の食材での調理実習を行った。
 - ③「みんなで楽しむ健康体操・スポーツ&上映会」を開催（1月13日）
八段錦、ディスコン、映画「普通の生活」の上映を行った。
- 5) 避難者訪問（5訪問先、延7回）

新聞情報を元に、避難者を訪問した。

 - ①阿南市新野町への避難者（3家族）及び新野支援隊（3回）
 - ②徳島市南出来島町在住の避難者（1名、1回）
 - ③吉野川市鴨島町、県営飯尾団地在住の避難者（1名、1回）
 - ④阿南市羽ノ浦町、県営春日野団地在住の避難者（1名、1回）
 - ⑤三好市、祖谷溪温泉「秘境の湯」に就職した避難者（1名、1回）

6) 避難者支援団体等訪問 (5 訪問先、延 7 回)

新聞情報を元に、避難者支援団体を訪問した。

- ①ダッシュ隊徳島 (2 回)
- ②NPO 法人市民未来社 (1 回)
- ③フォークデュオ「ヒルストーン」後援者 (2 回)
- ④和歌山県健康生きがづくりアドバイザー (1 回)
- ⑤阿波市阿波町在住篤志家 (1 回)

7) 公共団体、外郭団体訪問 (4 訪問先、延 11 回)

- ①徳島県県民環境部県民環境政策課県民協働室 (6 回)
- ②徳島県社会福祉協議会 (3 回)
- ③徳島市役所 (1 回)
- ④とくしま” あい” ランド推進協議会 (1 回)

2. 事業成果

- 1) 避難者の生活安定支援事業について行政担当部（徳島県県民環境部県民環境政策課県民協働室、他関連部局）と徳島県健康生きがいきづくりアドバイザー協議会との間で取組み当初から打合せ会議を開催することができたこともあり、側面的な支援を受け活動できた。

- 2) 徳島県担当部より避難者の就労先紹介2件の依頼を受ける。
 - ①A氏（38歳）B社「営業職」
福島県富岡町・・・福島第一原発事故現場8km
 - ・ハローワーク徳島と事前相談し、3社を具体的に紹介した。
※住宅業界独自の情報会社「就職・転職」の専門会社から、2社の紹介を受ける。
C社（高知市） 徳島支店に於いて面接試験を受け内定をもらう。
D社（浜松市） 当社徳島東展示場で面接を受ける事になっているが、先に内定を頂いているC社に就職することになった。
 - ・当協議会としてはA氏が「営業職」であり地元の地縁、人縁を活かし協力する予定である。
 - ②E氏（42歳）F社（千葉県市川市）
東京都江戸川区
 - ・ハローワーク徳島と相談し同業種の1社を紹介する。
G社 事業所 徳島市 雇用形態 正社員
 - ・徳島市に転籍し、徳島県への永住を決意する。
ハローワーク徳島に離職票を提出し、失業給付金受給手続きを開始する。
6ヶ月以内に①再就職 ②住まい ③子供小学校の3点セットを前提に、ご夫婦と十分話し合いの場を持って、支援して行く予定である。

- 3) 避難者の事業開店支援（応援）
 - ①H氏(28歳) 福島県いわき市（福島第一原発事故現場50km）
永年の飲食業勤務の経験を生かし「焼き鳥店」を開店
「開店場所」 三好市池田
「開店日」 平成25年1月18日（金）
 - ・開業に伴う支援（応援）について
 - A. 事業資金に対する補助金制度の調査、補助金・助成金・制度融資等の情報提供をした。
 - B. 徳島県「ふるさとショップ」開業支援事業実施要領、同交付要綱チェック。

- C. 業況の厳しい中、避難者が苦勞して開業する旨を広く地域全体にPRすることが大切と考え、地元新聞社へ協力を依頼して、大きく掲載された。
 - D. 当協議会会員の中に地元在住者がおり、友人、知人を紹介して顧客として開店に参加し、以後の継続利用につなげた。
 - E. 開店当日には祝電を打電した。
- 4) 避難者の皆さんを支援する事業（イベント）の実施
- A. 第1弾 平成24年8月16日 「今うわさの指ヨガ講習会」の実施
 - ・避難者でフォークデュオとして自立を目指している2名が参加し、受講のあと、二人が被災し、避難してくるまでの生のトークと、オリジナルの歌3曲が披露され、聴衆の共感が大いに得られた。
 - ・一般参加者は、復興義援金への寄付とCD購入に協力した。
 - ・イベント中、地元の四国放送の取材があり、当日夕方のニュースでこの様子が放映された。
 - B. 第2弾 平成24年10月28日（日）「お鍋一つで笑顔こぼれる健康料理教室」の実施
 - ・避難者10名参加
 - ・当協議会会員による「支援物資コーナー」設置
出品数40点・・・参加した避難者全員に配布した。
 - ・参加した方々の避難者ネットワークづくりが積極的に行われた。
名刺交換・電話番号交換・避難先の情報交換・日常生活情報など
 - ・陰陽重ね煮クッキングに避難者の要望を取り入れ有機栽培、低農薬の食材を取り入れた。
 - C. 第3弾 平成25年1月13日（日）「みんなで楽しむ健康体操・スポーツ&上映会」の開催
 - ・避難者11名が参加、中国の健康体操、八段錦の指導と実践で体と気持ちを解した。
 - ・ニュースポーツ「ディスコン」の競技をした。笑いがあり「楽しかった！」との感想が述べられた。
 - ・昼食には自然食レストランのお弁当を食べてもらい、大変感謝された。
 - ・20名の一般の方も対象に加えて、映画「普通の生活」を上映した。
アンケートの結果から、参加者に強いインパクトを与えたことがわかった。